「アウトドア・レジャー体験」は、「新たなる京都観光の資源」と成り得るか?

(対極的な資源を相互に活かし、未来へ向け「多方よし」共感創造の模索を探る)

東本 元次

本調査研究の流れは、下記のとおりです。

【①背景】 1 < 問題意識 >

2 <経緯説明>

3<今後模索>

【②京都市の概要と現状】1 <世界文化自由都市宣言>

2 < 京都市基本構想 >

3 < 京都市の都市特性>

4 <観光庁講義による>

5 < 地形 >

6 < 自然 >

7 < 歴史 >

【③調査方法とお声】 1 < 方法>

2 < お声>

3 <項目関心度>

【④分析整理と考察】 1 < 各項の考察 >

2 < 類似性の考察 >

3 < 差異性の考察 >

4 < 参考文献考察 >

5 < 分析と考察の照合 >

【⑤課題・展望と意義】 1 <課題>

2 < 展望>

3 < 意義 >

1 < 問題意識 >

・従来の京都観光を「静」(和)とした場合、アウトドアレジャー体験を「動」(洋) コンテンツで、新たなる京都観光資源(付加価値の創造)に出来ないか?(対極的な相乗効果を見いだせないか?京都の観光スポットは、決まった場所に集中している。定番のスポット以外としても分散できないか?日頃お世話になってます観光及びレジャー施設様に本調査と分析について、ご意見を直接聞いてみた。

2 < 経緯説明 >

・問題意識を持ちました経緯は、私自身が京都発信アウトドア・アクティブ・プランニング「アースグラフィティ(E.G.)」として2000年よりラフティングやアウトドア体験を企画運営している流れによります。今までその活動を取り組む中で様々な経験を学ぶことが出来ました。例えば、ガイド(インストラクション含む)を各フィールドで行う上で、主に印象に残る下記事例A~Cがございました。

事例A (サイクリング:ガイド同行マウンテンバイクでの体験)

2007年頃、TV取材(全国向け放送)依頼をお断りする理由としまして現状で需要・供給・地域・満足バランスが成立しているものがブーム拡大で将来問題が発生しないかと考え自粛の道を歩む。(地域の皆様への配慮)

事**例**B (トレッキング:体験プログラムの模索と断念)

京都市観光協会様から、愛宕山トレッキング体験を企画してみては。と、貴重な助言アドバイスを頂戴しておりましたのですが、体験コース企画をして大きな誘導経路をデザインした場合の調査シュミレーションをしてみたところ、不特定多数に案内する告知は安全上問題ありと考えた。ブームが来ると業者の数が増えるのは必然であり、他アクティビティで経験している。(安全緊急時に対する配慮)

事例C (ラフティング: 2013年9月台風、河川増水による運営方法の見直し) 亀岡・馬堀駅北側、当時使用のラフティング出発ベース冠水崩壊↓(自然との対峙)





3<今後模索>

・今までの私の経験を踏まえて本レポートに基づき、将来に向け皆様のお役に立つ事が出来 ないかと考え、調査研究に取り組んだ次第であります。先人の知恵を学び理解し今現在に おいて利他の相互精神、そして共感創造を描くことができれば、更なる明るい未来展望が やってくるのではないかと考えたからである。

1 <世界文化自由都市宣言>

・京都市は下記のとおり、宣言されている。

「都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれば、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。」

「世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、 平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。」

「京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすえるべきである。」

「もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることを静かに決意して、これを誓うものである。」

*入手先: <京都市情報館: 世界自由文化都市宣言

http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035716.html> (参照 2017-3-10)

2 < 京都市基本構想 >

・京都市の基本構想は下記の流れで記されている。

目次

まえがき

第1章 京都市民の生き方

第1節 文明の大きな転換期のなかで

第2節 京都市民の姿勢

第3節 京都市民の得意とするところ

第4節 これからの京都市民の生き方

第2章 市民のくらしとまちづくり

第1節 安らぎのあるくらし

第2節 華やぎのあるまち

第3節 まちの基盤づくり

第3章 市民がつくる京都のまち

第1節 市民の市政への主体的な参加

第2節 市政参加のしくみとかたち

第3節 市民と行政の厚い信頼関係の構築

むすび

・(上記目次の第1章、第1節の前半部分は下記のとおり記されている)

第1章 京都市民の生き方

第1節 文明の大きな転換期のなかで

わたしたちが住むこの日本は、戦後の荒廃のなかから立ち上がり、目をみはるような速さで、「豊かな」社会を、そして世界有数の長寿社会を実現してきた。しかし、世紀の変わり目を迎えてわたしたちは、経済成長率の低下や少子高齢化による社会構造の大きな変化など、社会のしくみに大きな転換を迫るような事態に直面している。

とりわけ、消費の急速な拡大がもたらした大量の廃棄物の発生や環境破壊の実態は深刻である。わたしたちは、これまで細心の注意をもって周りのいのちとの共生を図ってきたその文化的伝統を見失い、結果としてみずからの生命と文明の存続とを脅かすような事態に立ち至っている。膨張し続ける社会はもはやありえない。

大量生産・大量消費・大量廃棄型の都市文明のあり方に対して、わたしたちは環境との調和をめざす持続可能な社会をつくっていく必要があり、これは次世代に対するわたしたちの大きな責任である。

*入手先:<京都市情報館:京都市基本構想

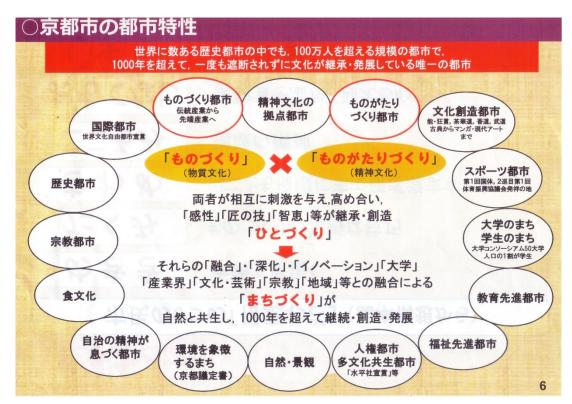
http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035717.html>(参照 2017-3-10)

3 < 京都市の都市特性>

・下記内容は(京都市の観光施策 ~世界が憧れる観光都市を目指して~ 平成28年10月4日 門川 大作 市長講義 1~40頁)による。

「講義の中では講義資料に基づき、下記の事をお話されていた。」

- どこでもやれることは、やってはならない。(その土地その人でないとできない本物)
- ・京都に来る理由「心」1000年超える京都の生き方
- ・観光客との共生
- ・敷居をまたぐ方法 ⇒ ごあいさつ ⇒ 活かす心
- ・生きる希望、勇気の持てる観光
- ・「観光は連携」「連携は自己変革」「観光は人なり」
- ~ 上記のことをお聞かせ下さいました。 ~



「京都市の都市特性:門川大作市長の講義資料、(資料6ページ)」を画像引用

4 <観光庁講義による>

・下記内容は(京都観光経営学講座 平成28年10月4日の講義資料 観光立国の実現 に向けて 観光庁観光産業課 課長補佐 森下 晶美 様の講義)による。

「明日の日本を支える観光ビジョン」-世界が訪れたくなる日本へ- 概要

課題

- ・我が国の豊富で多様な観光資源を、誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国 人にも分かりやすく伝えていくことが必要。
- ・観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産 業へと変革していくことが必要。
- ・CIQや宿泊施設、通信・交通・決済など、受入環境整備を早急に進めることが必要。
- ・高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような 社会を築いていくことが必要。

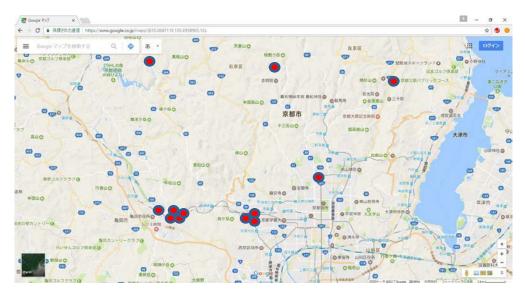
「観光先進国」への「3つの視点」

- 1.「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」
- 2.「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」
- 3.「すべての旅行者がストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

「上記は講義資料(33頁)」を文章引用

5 < 地形 >

・京都の町を囲む地形と観光施設とアウトドア・レジャー分布 (ご関係カンパニー分布図) *保津川下りとラフティングは、亀岡市から京都市にまたがっている。



Google マップ 引用 https://www.google.co.jp/maps/@35.0647118,135.6958903,12z(2017-3-10) * (筆者加筆)

6 < 自然 >

・気温(京都市)と雨による水位(淀川水系桂川:保津峡観測所)参照日2017年3月10日

気温 (単位:℃)				水位(単位:m)				
年	日平均	最高	最低	年	最高水位	最低水位	平均水位	
2004	16.8	37.7	-3.4	2004	9.84	-0.16	0.41	
2005	15.9	36.9	-3.7	2005	2.76	0.24	0.55	
2006	15.9	38.0	-3.0	2006	6.19	-0.06	0.51	
2007	16.3	38.6	-2.4	2007	3.89	-0.27	0.21	
2008	16.0	37.7	-2.2	2008	2.39	-0.20	0.18	
2009	16.1	36.5	-1.9	2009	3.75	-0.17	0.23	
2010	16.4	38.1	-2.5	2010	5.27	-0.12	0.28	
2011	16.0	36.9	-3.9	2011	7.45	-0.13	0.32	
2012	15.8	37.5	-3.5	2012	5.06	-0.20	0.31	
2013	16.2	39.0	-2.3	2013	11.62	-0.09	0.42	
2014	16.1	38.3	-1.7	2014	8.98	-0.10	0.55	
2015	16.6	39.1	-1.7	2015	6.99	-0.09	0.49	

国土交通省水分水質データベース http://www1.river.go.jp/cgi-bin/DspWaterData.exe?KIND= 4&ID=306041286606310&BGNDATE=20000131&ENDDATE=20151231&KAWABOU=NO 国土交通省気象庁過去の気象データ http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/annually_s.php?prec_no=61&block_no=47759&year=1996&month=&day=&view=p1s (参照 2017-3-10)

7 < 歴史 >

・山:愛宕山の歴史(参考:現地画像による調査資料)





・川:保津川の歴史(現場のお声を聞いてみる事にしました)

1 < 方法 >

・「②【京都市の概要と現状】」の内容に基づいて仮説資料を作成し、その仮説資料を基に 日頃お世話になっております観光・体験・施設事業者様・ご関係者様に、急な無理をお聞 き下さり、質疑応答形式で出来るだけ「生のお声」をひろうべく、お一人様あたり30分 から2時間30分のインタビューに応じて下さいました。(本当に感謝致します)

2 < お声>

- ・ご関係者様のお声(全てのお声を網羅しているわけでは、ございません) 【問題意識に対してのコメントです】
 - 1) 京都大原パブリックコース (ゴルフ場) 杉本支配人 様 「レジャー体験、スポーツ施設の方向。一人一人に好かれる様、心がける。」
 - 2) 大森リゾートキャンプ場 (キャンプ場) 榊原支配人 様 「京都観光としては、日本古来のものが多いのかなとイメージ。 アウトドアと考えた場合、もっと田舎の方では。」
 - 3) 有限会社自然派企画 (シャワークライミング他) 長谷川社長 様 「滋賀・奈良に比べて京都は山岳形状により、アウトドア資源が 少なく、それは半分あきらめている」
 - 4) グリーンウェーブ (ラフティング) 高土 代表 様 「観光、年齢、目的により、ニーズは変わる。それに対するサポートが必要。 アウトドア・レジャー産業が将来どれだけ関与できるかは、課題と考える。」

- 5) 冒険くらぶとむそーや (ラフティング) 村上オーナー 様 「イメージは、はんなり、アクティブ。許容、共存できると考えている。」
- 6)株式会社喜楽季来 (ラフティング) 西田/細川 様

西田様:「問題意識の発想が斬新」

細川様:「初回お寺、2回目保津川下り、3回目京都でアウトドアイメージ抱く」

7)株式会社ビッグスマイル (ラフティング)

三宅執行役員 様

「体験型産業ニーズといえる。」

- 8) ラフティング業界スタッフ (ラフティング) 1スタッフ 様 「観光客は京都に来るが亀岡は少ない。観光で来られる人自体認知してない。」
- 9) 保津川遊船企業組合 (保津川下り・ラフティング) 豊田代表理事 様 (保津川下り)「動の部分で120年観光事業としている実績あります。」 (ラフティング)「自然と川の魅力、活かせれば、観光資源になっていくと思う。」
- **10) 嵐山通船株式会社 (船遊び・鵜飼・貸ボート) 湯川 社長 様** 「嵐山の観光エリアの立場として、お話しをさせて頂きますと、
- 11) 京都嵐山 お住まい (観光ご関係者)中西 一夫 様「難しいのでは。人をつけ案内人つけて小さく行う。

嵐山の山、苔寺、亀山公園、コースはある。」

問題意識の回答はできません。」

12) 京都嵐山 花のいえ (宿泊施設) 西村 和子 様 「必要やなと思う。外国人の体験需要増えていると思う。違う意味の京都があっても 良いと思う。色々な人が行ける。観光に来られる色々な人に対応、選べる方がよい。」

3 <項目関心度>

・項目関心度(全て網羅しているわけではない為、数値は目安として捉えるのみです。)

【問題意識】に対する関心度合

5. 非常に関心あり 4名

4. 関心あり 4名

3. 普通 2名

2. あまり関心なし 0名

1. 関心なし 2名

0. 全く関心なし 1名

【調査分析】に対する関心順位

	1	2	3	4
(地形)	5名	1名	4名	3名
(自	5名	8名	_	_
然)				
(歴	3名	1名	4名	5名
史)				
(お	5名	3名	4名	1名
声)				

【調査分析】に対する関心割合

(地形) 58.46%

(自然) 70.76%

(歴史) 72.23%

(お声) 76.92%

【④分析整理と考察】******************************

1 <各項の考察>

・【①背景】の項目より

(考察)

(地域の皆様への配慮)

地域連携(連携)

(安全緊急時に対する配慮)

緊急対策 (連携)

(自然との対峙)

自然対策(連携)

・【②京都市の概要と現状】の項目より

地形(受け入れる、サービス)

(考察)

京都市(温故知新)(都市文明に対する仕事方法)(物質と精神文化融合)思考対策(雇用)

観光庁(魅力発掘)(産業革新)(全ての旅行者の快適な観光環境)

顧客満足(集客) 創造価値(集客)

自然 (データに頼らず目の前判断) (早めの開催中止案内)

自然対策 (連携)

歴史 (コミュニケーションスキルとして学ぶ)

知識技術 (連携)

2 <類似性の考察>

・【問題意識】に対して

(考察)

(京都の地形以外の特徴考える) 現状地形から、いかに企画創造するか

創造価値(集客)

(顧客属性の住み分け) (サービスおもてなし)

顧客属性(集客) 顧客満足(集客)

(複数回、複数コンテンツで充実化)

複数企画(連携)

(エリア拡大でのブランド認知相乗効果)

連携企画 (連携)

・【調査分析】に対する関心順位に対して

(考察)

(自然) 今後に向けて自然に対する安全対策は情報交換の場があっても 情報連携(連携) (お声) 尊重しあう、わかちあう、共同創造模索する 共感創造(集客)

— 9 **—**

・【調査分析】に対する関心割合に対して(関心度が高い)

共同創造 (集客)

(考察)

(お声) 76.92% 尊重しあう、わかちあう、共同創造模索する

知識技術(雇用)

(歴史) 72.23% 過去から学ぶ (自然) 70.76% 自然と向き合う

情報連携(連携)

3 <差異性の考察>

・【問題意識】に対して

(考察)

(住み分け踏まえた少人数制)

顧客満足(集客)

(すでに存在する所は、相容れない)

地域連携 (連携)

(既存のエリア外での模索)

新規企画 (集客)

・【調査分析】に対する関心順位に対して

(考察)

(地形) 地形を利用した新しい付加価値創造の模索

創造価値(集客)

(歴史) 関心低いということは知識を得れば逆にスキルの一つとなり得る 知識技術(雇用)

・【調査分析】に対する関心割合に対して(関心度やや高い)

(考察)

(地形) 58.46% 根本的な発想転換が課題である。

創造価値(集客)

4 <参考文献考察>

・インタビューにより「保津川の歴史」について、角倉了以の下記文献を教えていただいた。 角倉了以とその子(林屋辰三郎:著)星野書店 昭和19年4月5日 初版発行 (200-201頁)角倉家系譜

角倉家系譜によると人皇第五十九代宇多天皇の系、

そして吉田祖の系から角倉祖の第五代が了以、第六代が玄之と記されている。

角倉素庵 (林屋辰三郎:著)朝日新聞社 昭和53年3月30日 第一刷発行 (はしがき)より抜粋

角倉素庵(1571~1632)本姓:吉田氏

名与一、諱玄之、後貞順と改め、字子元、素庵と号した。 在世中、多く与一を称したが京角倉の通名としてうけつがれたためか 後世、素庵が通称となった。その生涯は、本書が伝える。

「最高の教養と研究活動を積み重ね、とくに書芸と出版事業に秀れたしごとを残した素庵は、まさに桃山・寛永文化の一翼をになった人物。だが必ずしも一般に著名とはいえない。 彼自身、嵯峨野の月のようにその仕事は光り輝いて人柄はつつましくひかえ目なのだ。 その光り輝く仕事とは朱印船による海外雄飛や高瀬舟による河川疎通だが、父了以の名声が素庵の実務的功績を蔽いかくしてしまった。(企画力・包容力)京学」 「祖先から伝えた科学的な緻密な企画力や、伝統的な家に育ち豊かな教養からにじみ出る 包容力も加わっている。これらを総括的に明らかにすることが必要である。」

-10

「そのためには桃山・寛永時代の京都の「長者」の環境も、充分に知っておくべきであろう。 そのなかに、網の目のようにめぐらされた婚姻関係が、個人の力を越えた意外な結びつきを、 社会的につくり出しているのである。そうした結びつきを背景として、個人の才能も開花した にちがいない。」と、言われている。

・角倉了以とその子素庵の歴史から学ぶ、地域に対しての学びの考察

この自然の大地に対する感謝の心、いろいろなご先祖様への感謝の心。 人は自分一人では生きておらず、自らの才能を活かし、どのように生きていくのか。 京都の学び(京学)精神性。

5 < 分析と考察の照合>

・上記項目を分析、考察したところ

(集客) (雇用) (連携) (精神性) が、浮かび上がる。

文明・文化的視点を礎とする出発点からデザインしていく必要性があるのではないか。 他者を尊重し全てを受け入れられる俯瞰的な立ち位置で、デザインをしていく必要性。

【⑤課題・展望と意義】****************************

1 <課題>

観光もレジャーも、(集客 → 雇用 → 地域と行政対応)と共通していると考える。 それを俯瞰して、関わる皆様を尊重し、とらえる精神性が課題であると考える。

2 < 展望 >

集客⇒ 各観光施設、体験施設のお客様属性に対応する誘導システムの構築

雇用⇒ 他事業者様を相互に尊重する心、観光とレジャー事業者様のポジションを 理解した上での仕事のやり方(地域に感謝、相手を尊重、相手に認知) 地域ブランドを踏まえることにより互いの付加価値が創造できると考える。

連携⇒ お客様属性は同業社、異業社であってもそれぞれ違う特徴を持っている。 互いが無いものを補え合える事ができれば、展望が開けると考える。 それには、事業者様、地域の皆様、行政の皆様の理解と協力の認識確認が 必要不可欠であると考える。

共感する礎として「地域の観光」「体験で集客」「教育し雇用」の展望があると考える。

集 客 ⇒ 体験・観光・教育 の 紹介と案内 (質の高いサービス提供)

雇 用 ⇒ 教育・観光・体験 の 知識の勉強 (質の高いサービス提供)

連 携 ⇒ 上記を俯瞰し、地域に貢献、行政とも連携

3 < 意義 >

私は、京都が培ってきた精神性によって、それぞれの地域の特性から自然な形で、誘導を描くことができれば、アウトドア・レジャー体験は、新たなる京都観光の資源と成り得ると考えます。

それには、・地域の起点を基に

- ・観光施設、アウトドア・レジャー体験施設の各ポジショニングの相互理解
- ・それぞれの属性に対する適切な誘導経路

*この全てで、京感(京の心を感じられるポイント)が得られれば、未来へ向けての 未だ潜在的に存在する京都の観光資源が創造され、更に発展した新たなる京都観光が 誕生するのでは、と考える。

- ・京都観光とアウトドア・レジャー体験に必要なもの (多方よし、温故知新、和魂洋才・共感・創造・情熱・発信)
- ・それを俯瞰できる京都の心を学ぶ精神性

ご協力下さいました皆様ありがとうございます。心から感謝致します。

【付記】

- ・本研究は京都市・京都大学・COCORO域(京都大学学際融合教育推進センター) 地域連携教育推進 京都観光経営学講座 2016年度 論文レポート提出により実施された。 「京都観光経営学 2016 演習概要文書 (2016.12.14)
 - 京都大学大学院 経営管理研究部 経営研究センター 特定准教授(特別教育研究)博士(経営学)前川佳一」
- ・本講座のご講義、演習指導をして下さいました全ての講師様、事務方の皆様、 そして、大変急な聞き取り調査にご協力くださいました関係各社の皆様、 本レポート作成にあたり、助言等ご相談を聞いて下さいました皆様、 ほか多くの皆様に深く感謝致します。ありがとうございます。
- ・本レポートは作成時、「レポート提出」および「地域連携」の両方を意識した形で 取組んだため、このような作成形態となりました。予めご了承願います。

全ての皆様が「多方よし」と、なりますように。

【参考文献】

1) 林屋辰三郎(昭和19年4月5日 初版発行)「角倉了以とその子」星野書店

2) 林屋辰三郎(昭和53年3月30日 第一刷発行)「角倉素庵」朝日新聞社